

氏名 田 中 博 國

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 甲 第 3 5 9 号

学位授与の日付 昭和47年 3 月31日

学位授与の要件 医学研究科内科系内科学専攻  
(学位規則第 5 条第 1 項該当)

学位論文題目

**Clinical and Experimental Studies on Folic Acid Deficiency due to Anticonvulsants.**

(抗痙剤による葉酸欠乏における臨床的実験的研究)

**第 1 編 Clinical and Nutritional study on megaloblastic anemia due to anticonvulsants.**

(抗痙剤による巨赤芽球性貧血について臨床的栄養的研究)

**第 2 編 Investigations on patients receiving anticonvulsant and experimental study on the effect of diphenylhydantoin on the absorption of folic acid in rats.**

(抗痙剤服用者についての検索とラットにおけるジフェニルヒダントインの葉酸の吸収に及ぼす影響についての実験的研究)

論文審査委員

教授 大 森 真 教授 小 坂 淳 夫 教授 山 崎 英 正

# 学位論文内容の要旨

抗痙剤による巨赤芽球性貧血は非常に希で本邦ではここに報告した 2 例以外には 3 例の報告があるにすぎない。著者は 1967 年に本邦初の症例を経験して以来抗痙剤による葉酸欠乏の研究をすすめてきた。第 1 編にはこの 2 例の臨床経過を記述しさらに第 2 例において貧血発症前の食餌の調査を行ない、病院の食事の葉酸含量及び患者の摂取量を、著者らが測定した各種食品中の葉酸含量の表をもとに計算した。この結果本貧血の発症に食餌からの葉酸の摂取不良が大きな役割を果していることを証明した。第 2 編では抗痙剤服用中のでんかん患者 48 名について検索し、高率に Macrocytosis, 低葉酸血症がみられたこと、これらが葉酸投与により改善されたことから抗痙剤の服用は葉酸欠乏を高率におこすことを明らかにした。抗痙剤は in vitro で L. casei, L. leichmannii の発育を抑制せず、単なる葉酸拮抗物質ではないことが考えられた。Rat を使って小腸からの <sup>3</sup>H 葉酸の吸収率を測定し、同時に diphenylhydantoin を少量投与しても葉酸の吸収を障害しないが大量投与では吸収を障害することを明らかにし、抗痙剤による葉酸欠乏の原因として腸管からの葉酸吸収障害が関与していることを証明した。

(2 編共 昭和46年12月、47年 2 月 Acta Medicinae Okayama 25巻, 5, 6 号に掲載予定)

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、抗瘰癧剤による巨赤芽球貧血の原因について臨床的ならびに実験的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった抗瘰癧剤による巨赤芽球貧血の原因について重要な知見を得たものとして価値あるものと認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。